九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[046] 語文研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/10226

出版情報：語文研究. 46, 1978-12-01. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

学会彙報

昭和五十三年度第一学期講義題目（昭和五十三年四月～十月）

国語学

特講	国語史と方言研究	奥村教授
演習	平曲譜本	〃
〃	国語学の諸問題	〃
特研	倒敍国語史	〃
講義	あゆひ抄	（熊本大学）佐田教授
演習	万葉集	（福岡女子大学）鶴　教授

国文学

特講	平安朝文学史――物語を中心に――	今井教授
演習	大鏡	〃
〃	本朝文枠　十二	〃
特研	平安朝文学の諸問題	〃
特講	洒落本史	中野助教授
演習	洒落本	〃
〃	〃	〃
〃	浮世草子	〃
特研	近世文人伝	〃
演習	近現代作品研究	（教養部）重松教授
〃	昭和作家論	〃
特研	近代文学史の諸問題	〃
講義	近代詩人の研究	（熊本大学）首藤教授

昭和五十三年度第二学期講義題目（昭和五十三年四月～五十四年三月）

国語学

特講	国語史と方言研究	奥村教授
演習	平曲譜本	〃
〃	国語学の諸問題	〃
特研	倒敍国語史	〃
講義	あゆひ抄	（熊本大学）佐田教授
演習	万葉集	（福岡女子大学）鶴　教授
臨講	平安朝文章史	（京都大学）渡辺教授

国文学

特講	平安朝文学史――物語を中心に――	今井教授
演習	源氏物語　手習巻	〃
〃	書誌学	〃
特研	平安朝文学の諸問題	〃
演習	近現代作品研究	（教養部）重松教授
〃	近代文学の諸問題	〃
特研	近代作家研究の方法	〃
講義	江戸蕉門の俳諧	（九州工業大学）石川助教授
講義	近代詩人の研究	（熊本大学）首藤教授
臨講	能と狂言	（東京大学）小山教授

▼進学生歓迎会（昭和五十三年十一月十一日）

進学生十八名（うち女子十二名）を迎え、「あと山」にて歓迎会

が開かれました。

▼春日和男教授退官記念論文集『語文論叢』（桜楓社刊）出版記念講演会

日時　十月二十三日（月）

於　西日本新聞会館十七階国際ホール

講師　筑島　裕　東京大学教授
　　大野　晋　学習院大学教授
　　春日和男　九州大学名誉教授

講演会は、立錐の余地もない程の聴衆で埋まり、またその後同ホールにて開かれた出版記念祝賀会も盛大にとり行なわれました。

▼奥村三雄先生が七月一日をもって国語学教授に昇格されました。

▼今井源衛先生が七月一日をもって文学部長に就任されました。

▼九大国語国文学会総会並びに研究発表会

昭和五十三年六月四日（日）

研究発表題目

「とりかへばや」における「源氏」摂取
——吉野の宮と宇治の八の宮を中心に——　辛島正雄

複合語のアクセントについて
——平安朝末期京都方言を対象とする——　木部暢子

大蔵流狂言の待遇表現について　坂口至

陀羅尼の読誦音について　崎村弘文

坂口安吾におけるファルスの限界　花田俊典

実録小説と読本
——春水本『幼婦孝義録』をめぐって　白石良夫

日本紀竟宴和歌の歌人たち　工藤重矩

四季の構図　白石悌三

「敦盛最後」と直実像の虚実　笠栄治

得一撫運三霊考——沙門景戒の背景　吉田達

▼第二十八回西日本国語国文学会

昭和五十三年九月二十三・二十四日

於　福岡教育大学

研究発表（本会会員関係）

朝鮮漢字音の声調体系　九州大学大学院　崎村弘文

「都氏文集」の諸本について　九州大学大学院　中條順子

本居宣長の歌合評について——全集未収録『寛政元年歌合』を紹介して——　純心女子短期大学　白石良夫

支子文庫本「拾玉集」について　福岡女子短期大学　西丸妙子

支子文庫蔵「神祇和歌」について　鹿児島県立短期大学　福井迪子

▼卒業論文相談会　昭和五十三年　五月二十日

▼卒業論文構想発表会　昭和五十三年十一月十一日

昭和五十四年度　九州大学国語国文学会総会

日時　昭和五十四年六月三日（日）午前九時三十分より

場所　九州大学文学部

研究発表御希望の方は題目を明記の上、本会宛、昭和五十四年五月十日迄に御申し込み下さい。

新刊書

○春日教授退官記念『語文論叢』（桜楓社刊、定価六、八〇〇円）

(1) 春日和男教授の退官に寄す　小島吉雄
(2) 「かなし」の意義　阪倉篤義
(3) 擬古文論　中村幸彦
(4) 訓読前後
——居・坐の一群を中心として——　小島憲之
(5) 『日本霊異記』とその訓釈のかな　馬淵和夫
(6) 法隆寺本辨正論保安点　築島裕
(7) 十一世紀における片仮名字体の伝承　小林芳規
(8) 推古時代の音仮名と朝鮮漢字音
——ア列音表記の漢字を中心に——　藤井茂利
(9) 万葉集における正訓文字の訓法　鶴久
(10) 万葉集巻十四の語彙・語法における
平安時代的性格について　工藤博子
(11) 篆隷万象名義の部首排列について　福田益和
(12) 滋野貞主考——『経国集』の詩人——　金原理
(13) 平安朝における終助詞「かし」について　佐田智明
(14) 「に」を介する同一動詞反復形式の表現価値
——その通史的考察の試み——　山口康子
(15) 九州大学蔵『八字文殊儀軌』について　田尻英三
(16) 和漢混淆文における文学性について
——「平家物語」と「保元物語」「平治物語」の副詞から——　原栄一
(17) 藤原定家の仮名遣　迫野虔徳
(18) 東国抄物の敬語について　田籠博
(19) 天草本平家物語の文章小考　柏原卓
(20) 謡曲譜本のある種の施譜法
——日本古典全集『帝室御物謡曲百番』にみる——(二)　添田建治郎
(21) 季語「淡雪」粗描
——元禄俳諧季語ノート——　石川八朗
(22) 連体形準体法の実態
——近世後期資料の場合——　原口裕
(23) 「奉教人の死」論
——虚偽の出典の意味を中心に——　海老井英次
(24) 「宇治橋」の贈答歌について
——宇治十帖の主題——　今井源衛
(25) 〃しやれ本〃名義考　中野三敏
(26) 平曲譜本に反映した自立語のアクセント　奥村三雄
(27) 「東大寺切」に見える音便現象について　春日和男

九州大学国語国文学研究室へお申しこみの方に限り二割引き